

情報処理技術セミナー 「Shibboleth環境の構築」

概要説明

セミナーの目的と内容

▶ 目的

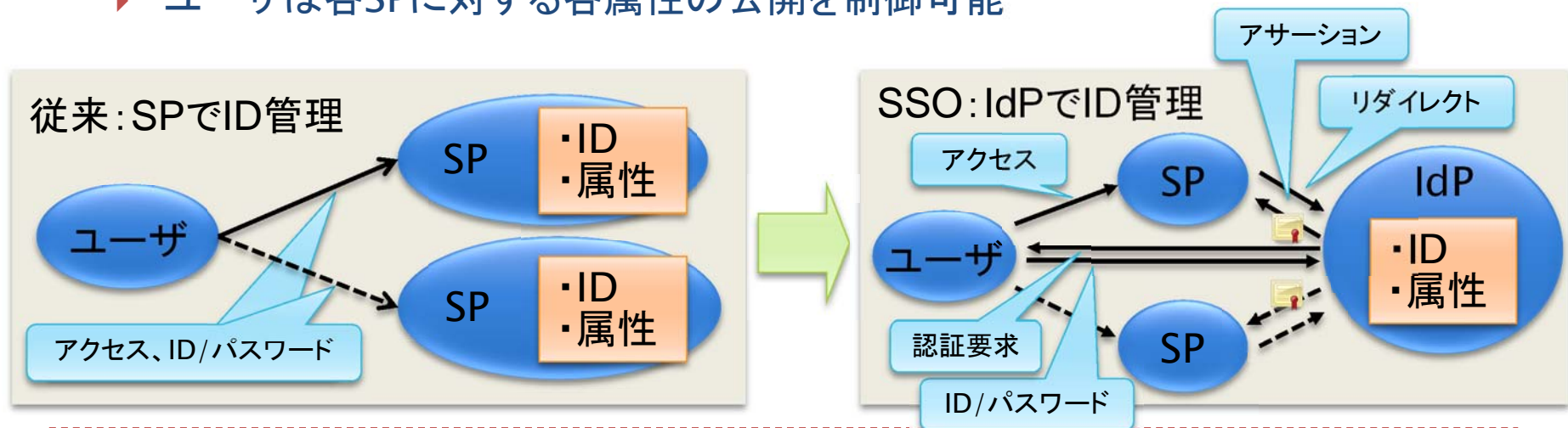
- ▶ 学術認証フェデレーションへの参加に必要な Shibbolethに基づくIdPとSPの構築、運用の基本を理解する

▶ 内容

- ▶ 1日目：“IdP”の構築実習
 - ▶ jdk、tomcat、Shibbolethのインストール
 - ▶ 設定、接続テスト
- ▶ 2日目：“SP”の構築実習
 - ▶ Apache、Shibbolethのインストール(shibd, mod_shib)
 - ▶ 設定、接続テスト

学術認証フェデレーションとは

- ▶ 学術認証フェデレーションとは
 - ▶ 定められた規程(ポリシー)を信頼しあうことで、相互に認証連携を実現し、学術リソースを利用・提供する機関や組織から構成された連合体のこと
 - ▶ 機関(IdP)がIDと属性を管理し、サービス提供者(SP)がそれを利用して認可
- ▶ プライバシ保護を考慮したシングルサインオン(SSO)技術
 - ▶ ユーザのユニークネスを保証しつつ個人情報を出さない
 - ▶ SPは必要な情報のみをIdPに要求
 - ▶ ユーザは各SPに対する各属性の公開を制御可能



Shibboleth (シボレス)



- ▶ 米国EDUCAUSE／Internet2にて2000年に発足したプロジェクト
 - ▶ <http://shibboleth.internet2.edu/>
- ▶ SAML、eduPerson等の標準仕様を利用した、認可のための属性交換を行う標準仕様とミドルウェア（オープンソースソフトウェア）
- ▶ 米国、欧州でShibbolethによるFederationが運用、拡大
- ▶ バージョン1.3系と2.0系が広く利用されている（プロトコルが少し異なる）
 - ▶ 最新は IdP 2.3, SP 2.5
 - ▶ Linux および Windows (IIS) にも対応

cf.

- ▶ 欧州（特に北欧）では、simpleSAMLphpも利用されている
 - ▶ ノルウェーUNINETT
 - ▶ <http://rnd.feide.no/simplesamlphp>
 - ▶ 日本語化プロジェクト
 - ▶ <http://sourceforge.jp/projects/ssp-japan/>
- ▶ Microsoft ADFS 2.0 も利用可能



フェデレーション構築に必要なサーバ

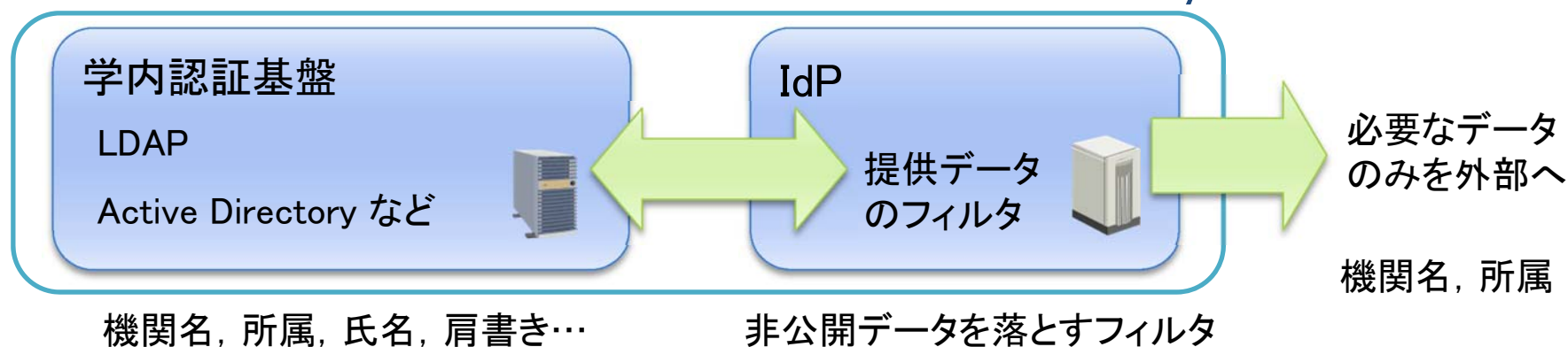
- ▶ IdP (Identity Provider) 大学(サービス利用者側)が用意
 - ▶ フェデレーション内に構成員の情報を提供するサーバ
 - ▶ フェデレーションに参加する大学等が構築

- ▶ SP (Service Provider) 大学他(サービス提供側)が用意
 - ▶ 認証を受けた人に対してサービスを行うサーバ
 - ▶ 電子ジャーナル, データベース, E-ラーニング等
Webベースのシステムであれば何でも可

- ▶ DS (Discovery Service) フェデレーションが用意
 - ▶ SPへのアクセスの際にIdPを検索するシステム
 - ▶ フェデレーションが運用
 - ▶ ここに名前がのることにより「フェデレーションに参加」
 - ▶ WAYF (Where Are You From) サービスとも呼ばれる(Shib 1.x)
 - ▶ SPへの埋め込み(embedded)方式もある

IdP (Identity Provider)とは

- ▶ フェデレーション内に情報を提供するサーバであり, 大学等が構築
- ▶ IdP自身は情報を持たない
- ▶ 情報はLDAPやActive Directory等, 既存の認証基盤を参照
- ▶ IdPは単なるフィルタであり, 学内認証基盤から特定のデータのみを抽出して提供する
- ▶ 公開できるデータの制御が可能である
 - ▶ このため, Shibbolethはしばしば個人情報保護に優れていると言われるが, サーバ自体がハッキングに強固という意味ではない。
 - ▶ 慎重な操作が必要なのは, LDAPやActive Directoryと同じ



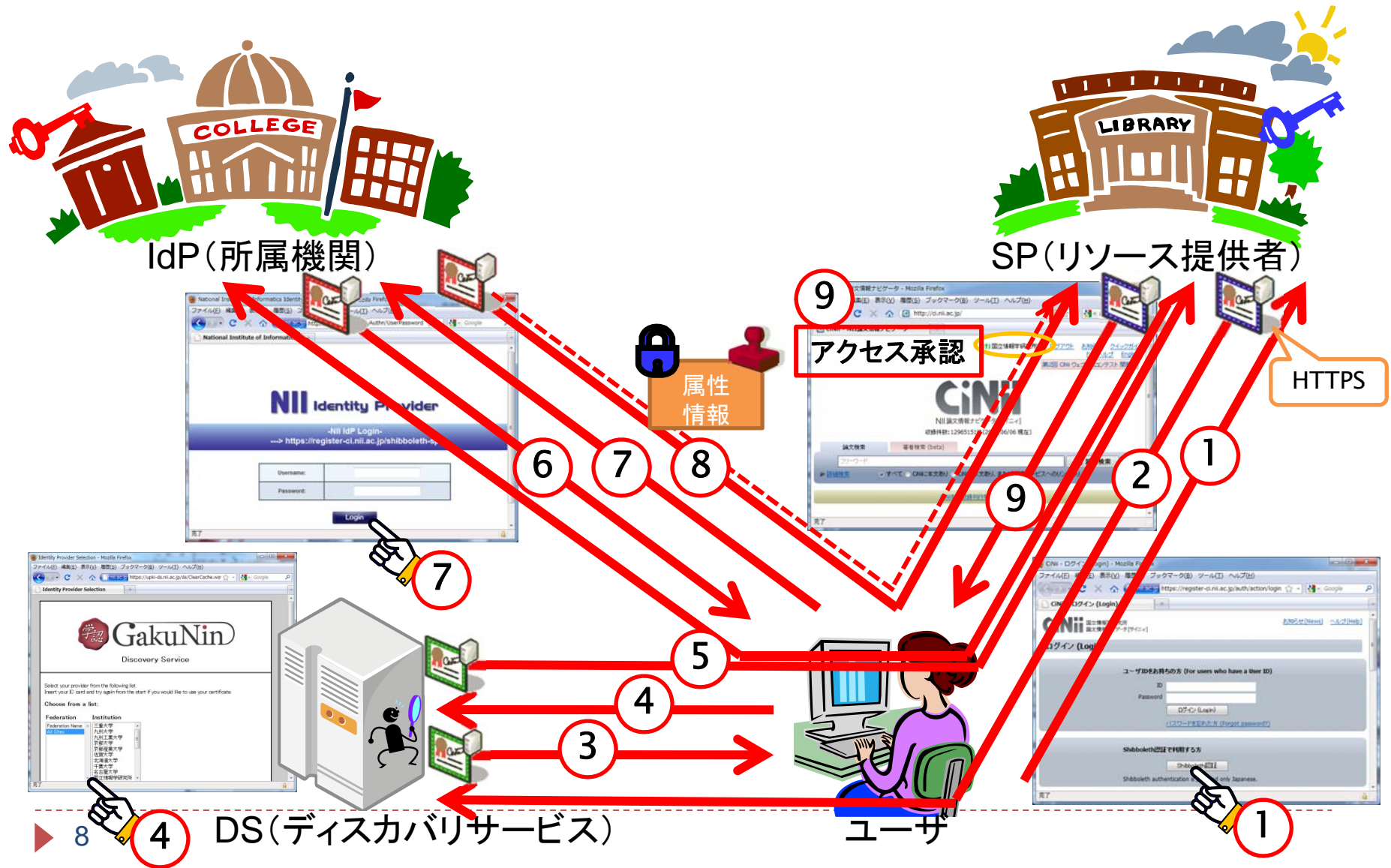
SP (Service Provider)とは

- ▶ サービスを提供するWebサーバのこと
- ▶ “シボレスログイン”等のボタンがあればShibbolethで利用可能なSPである
- ▶ 電子ジャーナルに限らず、いろいろなサービスをShibboleth化することが可能
(例:無線LAN認証, サイボウズ)

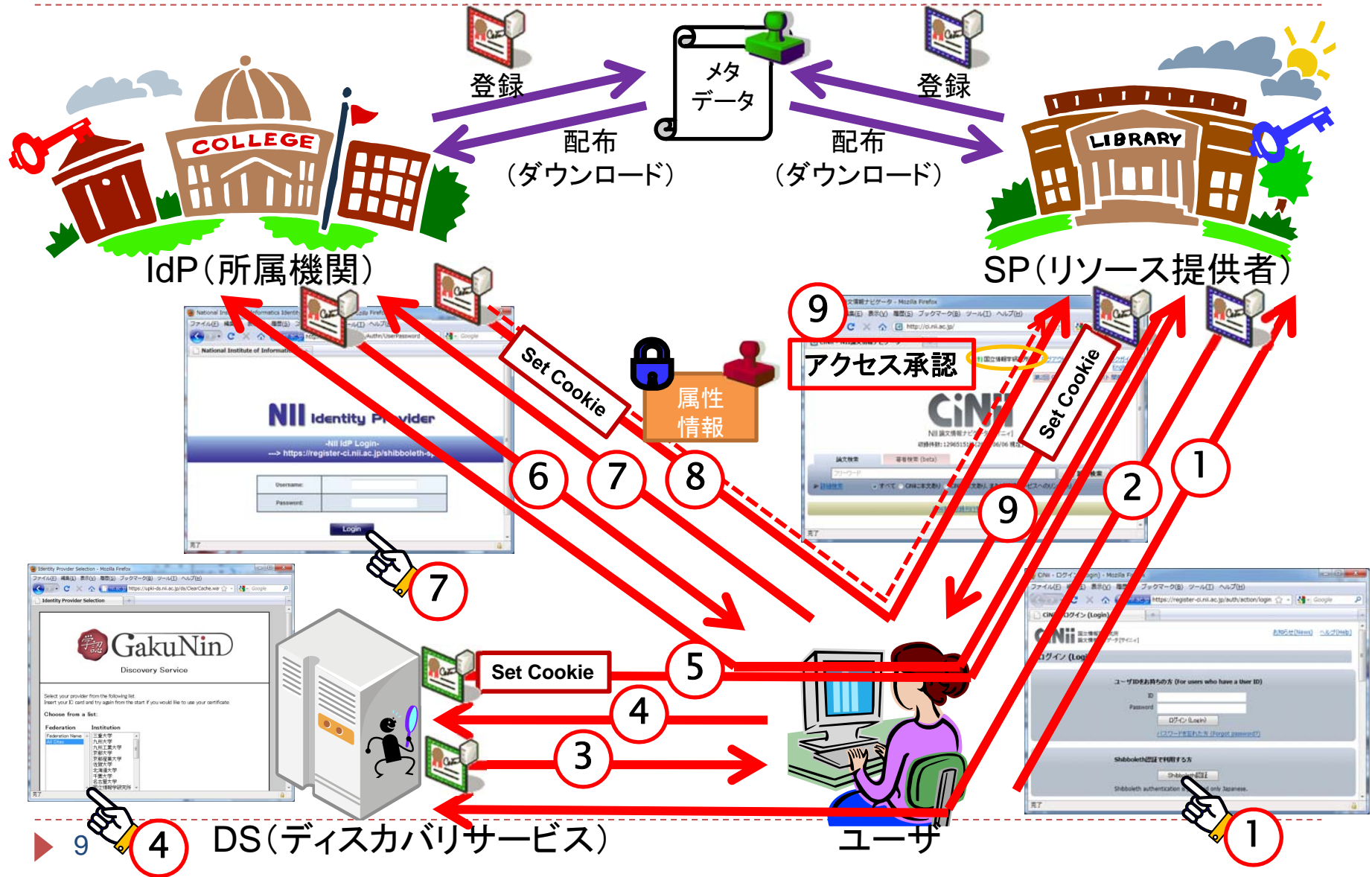
The image shows two screenshots of web login pages. The left screenshot is for CiNii (National Institute of Informatics) and the right one is for Garoon (Cybozu). Both pages have a red circle highlighting the Shibboleth authentication option. The CiNii page has a button labeled 'Shibboleth認証' and a link 'パスワードを忘れた方 (Forgot password?)'. The Garoon page has a button labeled 'ログイン' and a link 'shibboleth認証でログインするユーザはこちらから'.

学内のみの利用ならば, IdP, SPが立ち上がれば完成。
他大学と連携するには何が必要?

Shibbolethの基本動作



Cookieによる処理の記憶



Cookieの有効期限

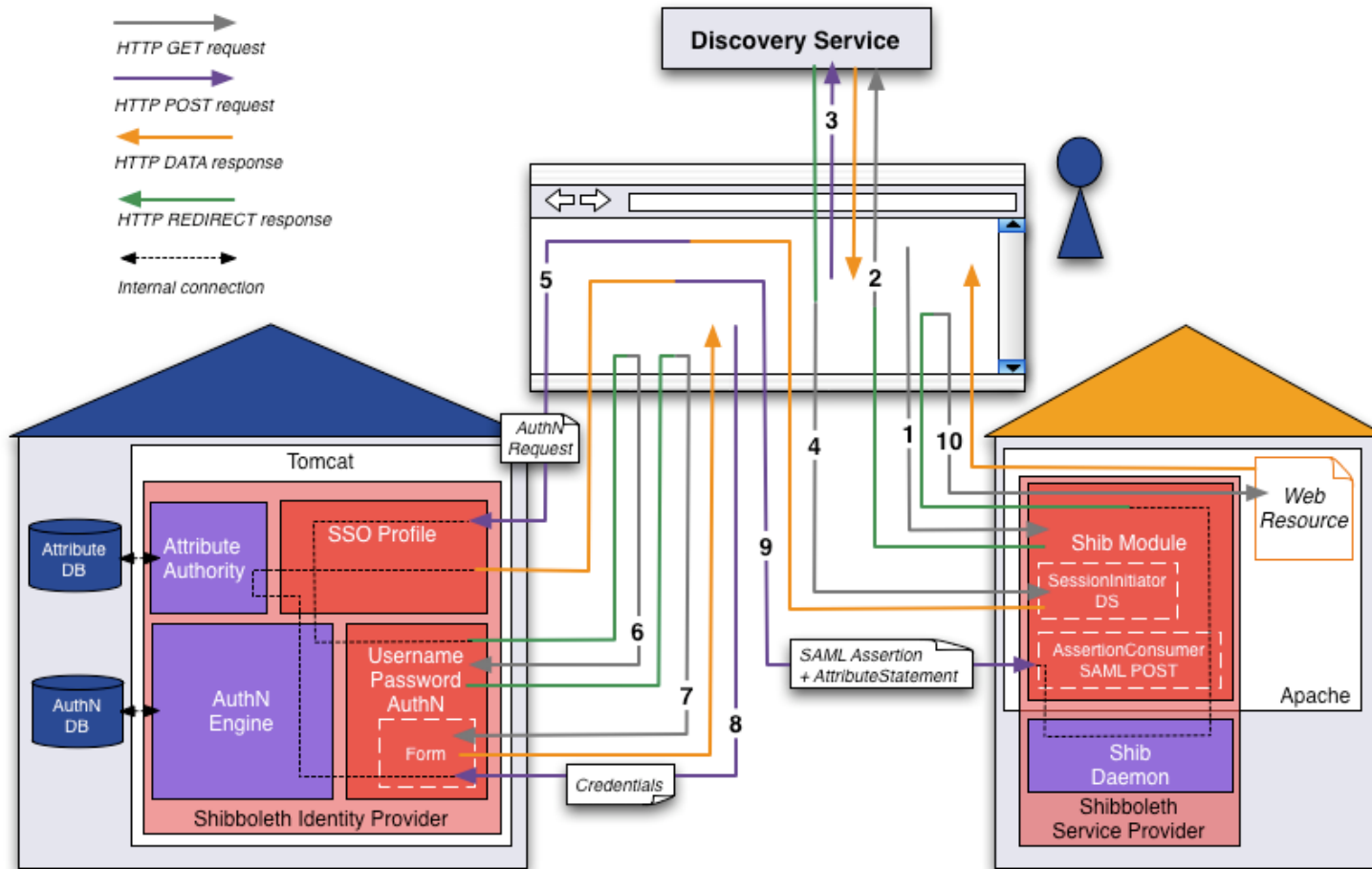
▶ DSにおけるIdPの選択結果

- ▶ 数ヶ月
- ▶ ブラウザ起動中
 - ▶ IdP選択時にチェックボックスで選択できるようになっている

▶ IdPにおけるパスワード認証結果

- ▶ ブラウザ起動中
 - ブラウザを閉じることでログアウト
- ▶ Cookieの有効期限内であっても
 - ▶ IdP側でタイムアウト
 - ▶ 端末側のIPアドレスの変更
などで再認証が要求される

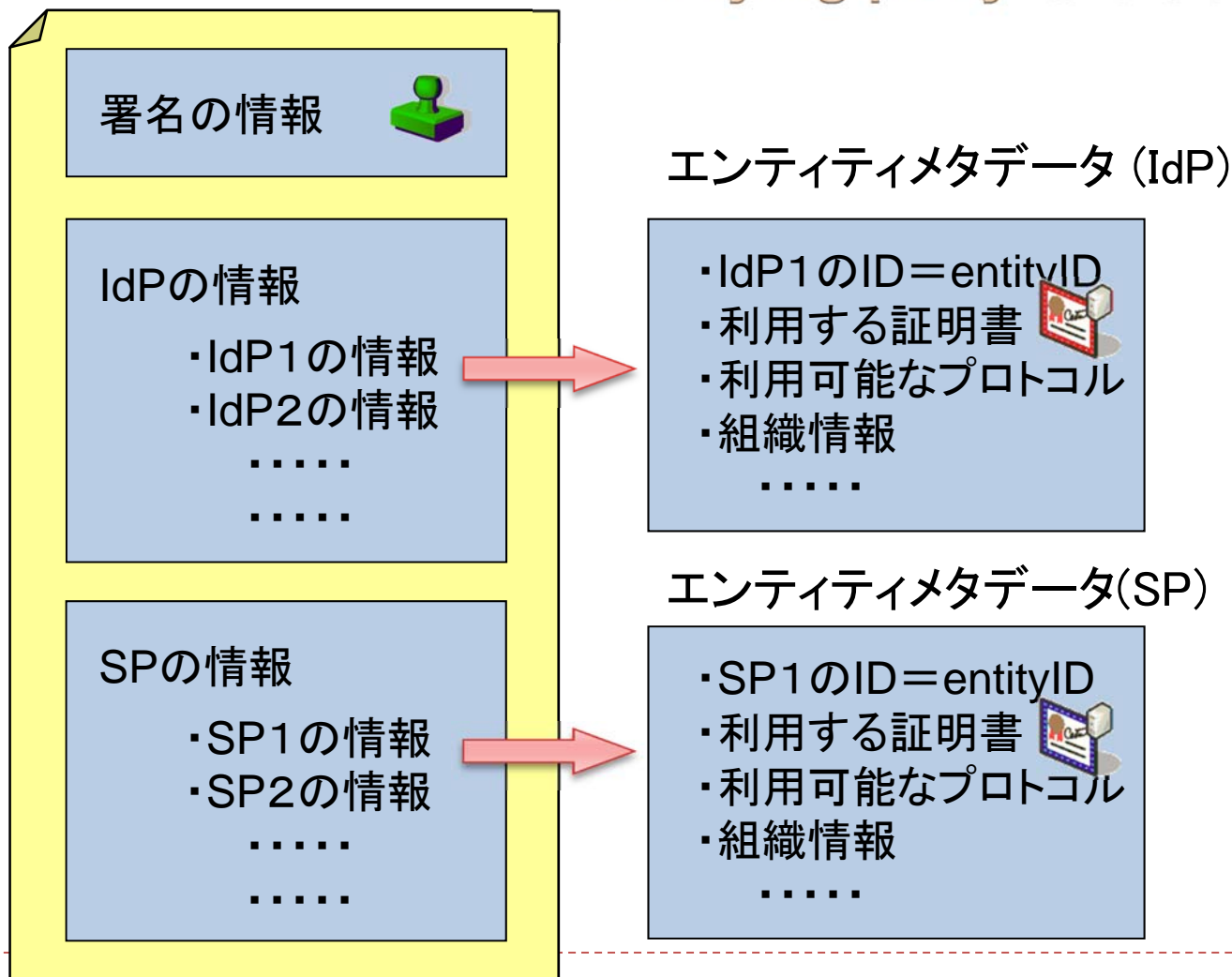
Shibboleth動作の詳細 (Shibboleth 2.x)



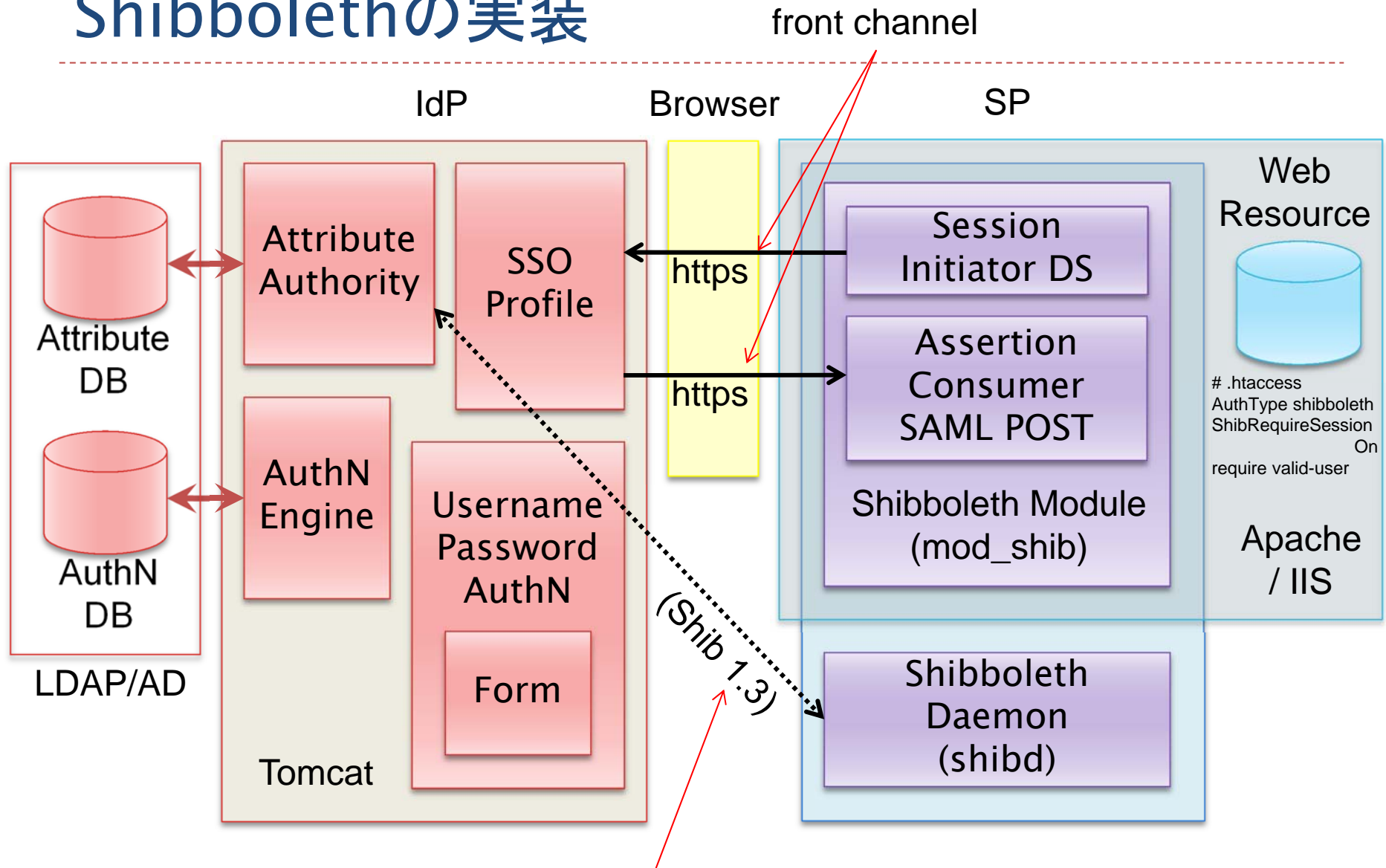
<http://www.switch.ch/aai/demo/> より

メタデータ(XML形式)の構成

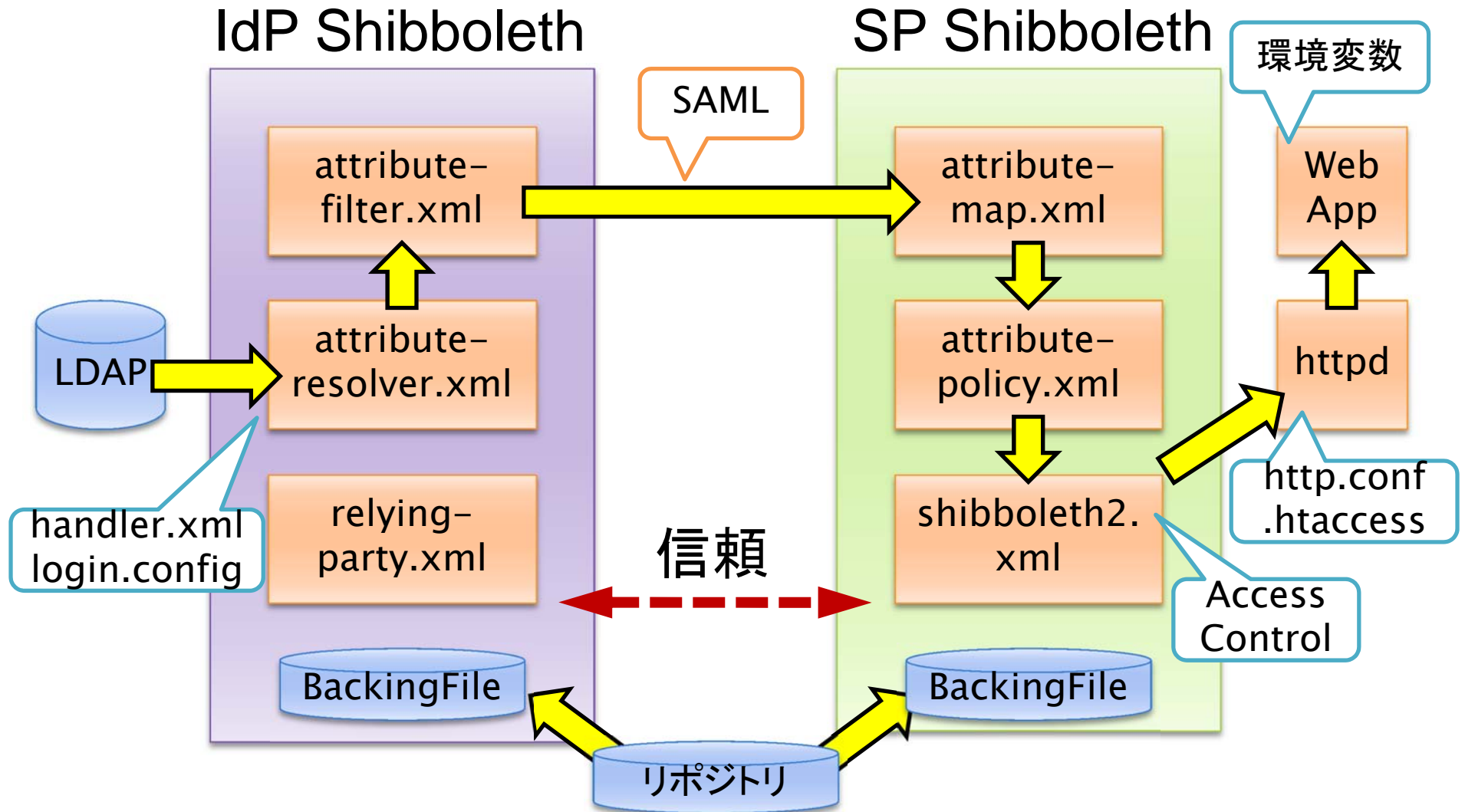
フェデレーションメタデータ ≡ **relying party (信頼関係)**



Shibbolethの実装



属性情報のフィルタリングと認可制御



学認で扱う「属性」

学認で使用される属性情報の種類は**17種類**。
これらを用いて**認可**処理などが可能。

属性	内容
OrganizationName (o)	組織名
jaOrganizationName (jao)	組織名(日本語)
OrganizationalUnit (ou)	組織内所属名称
jaOrganizationalUnit (jaou)	組織内所属名称(日本語)
eduPersonPrincipalName (eppn)	フェデレーション内の共通識別子
eduPersonTargetedID	フェデレーション内の匿名識別子
eduPersonAffiliation	職種
eduPersonScopedAffiliation	職種(@scopeつき)
eduPersonEntitlement	資格
SurName (sn)	氏名(姓)
jaSurName (jasn)	氏名(姓)(日本語)
GivenName	氏名(名)
jaGivenName	氏名(名)(日本語)
displayName	氏名(表示名)
jaDisplayName	氏名(表示名)(日本語)
mail	メールアドレス
gakuninScopedPersonalUniqueCode	学生・職員番号(@scopeつき)

実際に使われる属性情報の例

サービスA (1項目必須)

eppn (必須)
eduPersonAffiliation

サービスB (1項目必須)

eduPersonAffiliation (必須)

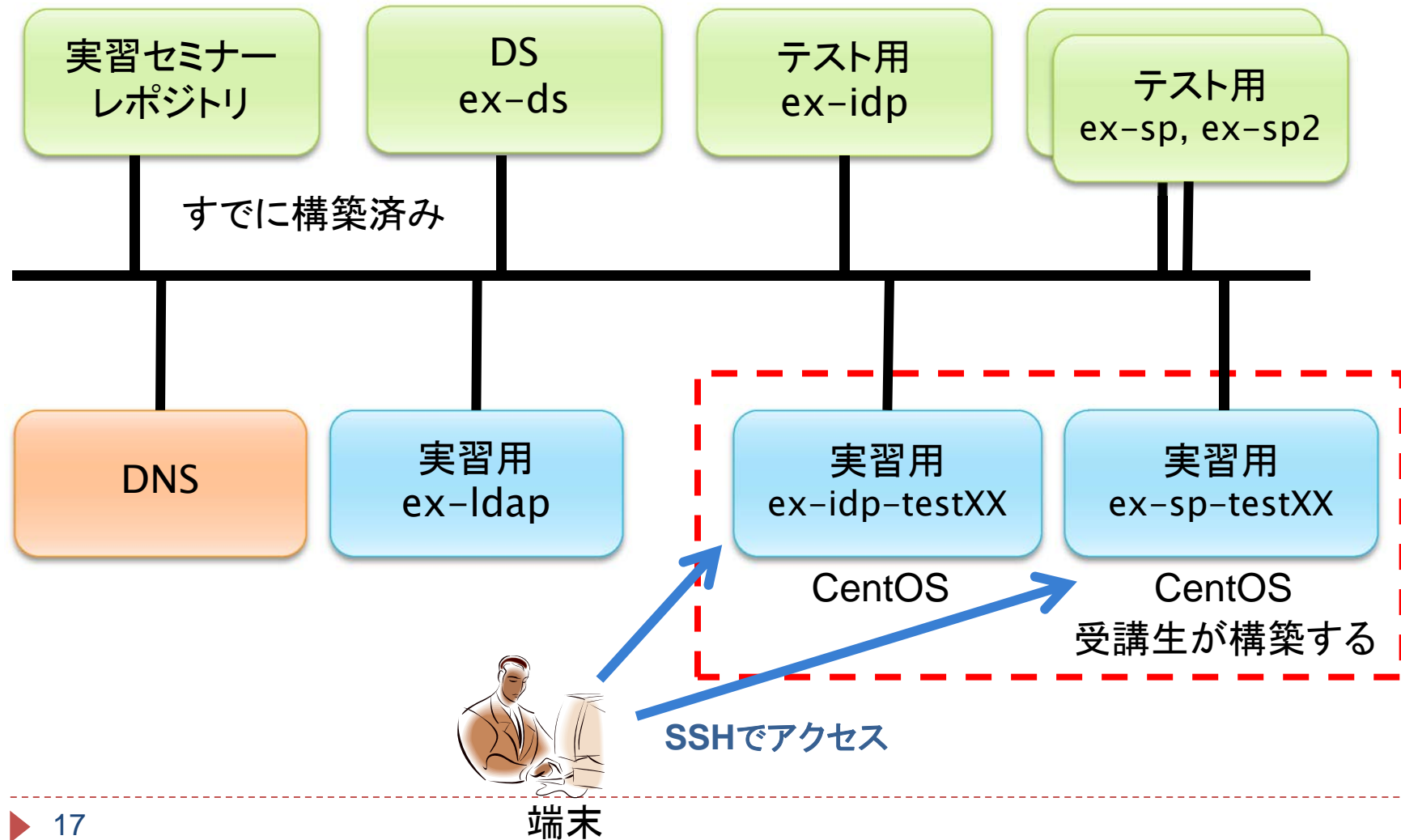
サービスC (2項目必須)

eduPersonTargetedID (必須)
eduPersonEntitlement
eduPersonScopedAffiliation
(どちらか必須)







(参考) <https://www.gakunin.jp/docs/fed/technical/attribute>

実習環境

すべてクラウド(NIIのedubase Cloud)上にある



すでに準備されているもの

- ▶ テスト用IdP、SP
 - ▶ 他機関が用意したものと想定
- ▶ テスト用DS
 - ▶ フェデレーションが用意するもの
- ▶ DNSサーバ
 - ▶ IdP、SPのサーバ名を登録
- ▶ NTPサーバ
 - ▶ Shibbolethの動作には時間同期が重要
- ▶ 鍵ペア、サーバ証明書      
 - ▶ 実際には、鍵の生成と証明書発行申請が必要
- ▶ LDAPサーバ
 - ▶ 別途用意されていると想定

各種情報

1. 学術認証フェデレーション(学認)に関するWebサイト

<https://www.gakunin.jp/>

2. ポリシー、申請書

「学術認証フェデレーション」-「参加」

<https://www.gakunin.jp/docs/fed/join>

3. IdP、SP構築ガイド

「学術認証フェデレーション」-「技術ガイド」

<https://www.gakunin.jp/docs/fed/technical>

4. IdP構築用VMイメージ(Vmware Serverにて作成)

「学術認証フェデレーション」-「技術ガイド」-「IdP構築関連ファイル」

<https://www.gakunin.jp/docs/fed/technical/idp/files>

5. テンプレート(メタデータ、IdP属性管理)

「学術認証フェデレーション」-「技術ガイド」-「テンプレート」

<http://www.gakunin.jp/docs/fed/technical#template>

6. 情報交換メーリングリスト(アーカイブ)

「学術認証フェデレーション」-「情報交換ML」

<https://www.gakunin.jp/docs/fed/ml>

追加課題1 (IdPでの属性制御)

- ▶ 属性情報を全くSPに送出されないように設定を変更し、動作確認する
- ▶ eduPersonTargetedID、eduPersonPrincipalNameのみが送出されるように設定を変更し、動作確認する
- ▶ あるSPに対してeduPersonTargetedIDのみが送出されるように設定を変更し、動作確認する
- ▶ あるユーザについて、eduPersonEntitlementの値としてadminを送出するように設定し、動作確認する
 - ▶ 参考URL: <https://wiki.shibboleth.net/confluence/x/GoBC>
- ▶ eduPersonEntitlementの値について、あるSPに対して必要な値のみ通過させるように設定し、動作確認する
 - ▶ 参考URL: <https://wiki.shibboleth.net/confluence/x/84BC>

追加課題2 (SPでの属性制御)

- ▶ 受信した全ての属性がフィルタされるように設定を変更し、動作確認する
- ▶ IdPからeduPersonEntitlementについて複数の値を送出するようにし、SPで一方の値のみを通過させるように設定を変更し、動作確認する
- ▶ IdPでtrainingTestAttributeという新たな属性を送出し、SPでその属性を受信するように設定を変更し、動作確認する

追加課題3 (SPでのアクセス制御)

- ▶ シングルサインオン(SSO)の動作を確認
- ▶ eduPersonAffiliationがstaff の場合にだけアクセスを許可するように設定し、動作確認する
- ▶ eduPersonEntitlementにtestが含まれる場合にだけアクセスを許可するように設定し、動作確認
- ▶ LazySession の設定を行い動作確認する
 - ▶ 参考URL: <https://wiki.shibboleth.net/confluence/x/bYFC>
- ▶ ForceAuthentication (forceAuthn) を指定した場合のSSO の動作を確認する
 - ▶ 参考URL: <https://wiki.shibboleth.net/confluence/x/SIBC>
- ▶ PassiveAuthentication (isPassive) を設定した場合の動作を確認する
 - ▶ 参考URL: <https://wiki.shibboleth.net/confluence/x/SIBC>